indigenous to the islands, ed. rev. 754pp. Gov. Res. Inst., Formosa. Kurata, S. 1964. Illustrated important tree of Japan. 1. 217pp., Tokyo. Liu, T. S. 1960. Illustrations of native and introduced ligneous plants of Taiwan. 1. 702pp., Taipei. Ohashi, H., Y. Tateishi, T. C. Huang & T. T. Chen 1984. Taxonomic studies on the Leguminosae in Taiwan. 1. Sci. Rep. Tohoku Univ. 4th ser. (Biology) **38**: 277-334. Ohwi, J. 1953. Flora of Japan. 1383pp., Tokyo. —— 1965a. Flora of Japan, ed. Engl. 1067pp., Washington. —— 1965b. Flora of Japan. ed. rev. 1560pp., Tokyo. Sasaki, S. 1928. List of plants of Formosa. 562pp., Taihoku.

* * * *

台湾には，イヌエンジュ属の1種が分布することが知られている。これは，ハネミノイヌエンジュ (*M. floribunda* (Miq.) Takeda)，シマエンジュ (*M. tashiroi* (Yatabe) Makino) またはその変種タイワンエンジュ (*M. tashiroi* var. *taiwaniana* Kanehira; ただし裸名) あるいはイヌエンジュ (*M. amurensis* Rupr. et Maxim. var. *buergeri* (Maxim.) C. K. Shun.) とされてきた。1982年から1985年に台湾で植物調査を行ない，本種についても，多数の良い標本を得ることが出来た。これをもとに，台湾産イヌエンジュ属植物の分類学的再検討を行なった。その結果，台湾産種は，本文中に述べたように，外部形態においても，花粉粒の形態においても，シマエンジュ，ハネミノイヌエンジュやイヌエンジュとは明かに異なる新種であることが明白となり，*M. taiwanensis* Hoshi et Ohashi と命名した。

□梅村　雪（編）：**梅村甚太郎日記抄** 601pp. 図版7pp. 1986. 自費出版. 本草学は江戸時代末期に名古屋で特に盛んであった。最後の本草家とも思われる梅村甚太郎翁（1862, 11, 3〜1946, 3, 21）の明治14年から昭和20年の敗戦の年までの日記から，次女の雪さんが選び編集したものである。梅村翁は牧野富太郎先生と同年に生まれ，植物採集には特に熱心だった。富士山のフロラや桜の研究，仏法僧の本態がミミズクの一種であることを明らかにされたことでも有名である。三男一女を病気や戦争で失い，日記は昭和20年1月29日の「敵機大阪方面へ来襲す」で終っている。さまざまの場所の採集植物リストもあれば，明治，大正，昭和にわたる多くの植物学者の動静もこの日記により察知できる。最後に梅村雪「父の思い出」，吉川芳秋「思い出，梅村甚太郎先生と私」がある。非売品ではあるが，〒466 名古屋市[redacted]梅村雪様宛に実費 3,000円を送れば，残部があれば求めることができる。（木村陽二郎）